

令和2年 大学入試センター試験 (数学II・数学B) の略解と解説

2020年5月6日

第1問. [1], (1) $0 \leq \theta < 2\pi$ のとき、

$$\sin \theta > \sqrt{3} \cos \left(\theta - \frac{\pi}{3} \right) \quad \dots \textcircled{1}$$

を満たす θ の範囲を求める問題。数字を当てはめる穴埋め問題。答えの所は赤文字にした。
加法定理より

$$\sqrt{3} \cos \left(\theta - \frac{\pi}{3} \right) = \sqrt{3} \left\{ \cos \theta \cos \frac{\pi}{3} + \sin \theta \sin \frac{\pi}{3} \right\} = \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta + \frac{3}{2} \sin \theta$$

である。①より、

$$\frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta + \frac{3}{2} \sin \theta - \sin \theta < 0, \quad \rightarrow \quad \frac{1}{2} \sin \theta + \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta < 0,$$

よって、①は $\sin \left(\theta + \frac{\pi}{3} \right) < 0$ と変形できる。したがって、答えは

$$\frac{2}{3}\pi < \theta < \frac{5}{3}\pi.$$

*この問はレベル3。問題文の流れに従って、三角関数の加法定理と合成を用いて、計算をするだけの問題。穴埋め問題って考えることほとんどないね。

(2) $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ で、 k は実数、 $\sin \theta$, $\cos \theta$ は2次方程式 $25x^2 - 35x + k = 0$ の解である。

このとき、解と係数の関係より

$$\sin \theta + \cos \theta = \frac{35}{25} = \frac{7}{5}, \quad \dots \textcircled{2} \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{k}{25} \quad \dots \textcircled{3}$$

②より $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta + 2 \sin \theta \cos \theta = \frac{49}{25} \rightarrow 2 \sin \theta \cos \theta = \frac{24}{25}$ となるので、 $k = 12$.

2次方程式は $25x^2 - 35x + 12 = 0 \rightarrow (5x - 4)(5x - 3) = 0$ なので、 $\sin \theta \geq \cos \theta$ とすると、

$$\sin \theta = \frac{4}{5}, \quad \cos \theta = \frac{3}{5}.$$

このとき、 $\sin \frac{\pi}{4} = \frac{1}{\sqrt{2}} = 0.707\dots < \sin \theta = \frac{4}{5} = 0.8 < \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2} = 0.866\dots$

なので $\frac{\pi}{4} \leq \theta < \frac{\pi}{3}$.

*この問もレベル3。解と係数の関係式②と③が書ければ、計算の方針が見える。

[2], (1) t は正の実数で、 $t^{\frac{1}{3}} - t^{-\frac{1}{3}} = -3$ である。両辺を二乗すると

$$\left(t^{\frac{1}{3}} - \frac{1}{t^{\frac{1}{3}}} \right)^2 = 9 \rightarrow t^{\frac{2}{3}} - 2 + t^{-\frac{2}{3}} = 9 \rightarrow t^{\frac{2}{3}} + t^{-\frac{2}{3}} = 11.$$

このとき、 $t^{\frac{2}{3}} + 2 + t^{-\frac{2}{3}} = 13 \rightarrow (t^{\frac{1}{3}} + t^{-\frac{1}{3}})^2 = 13 \rightarrow t^{\frac{1}{3}} + t^{-\frac{1}{3}} = \sqrt{13}$.

また, $\left(t^{\frac{1}{3}} - \frac{1}{t^{\frac{1}{3}}}\right)^3 = t - 3(t^{\frac{1}{3}} - t^{-\frac{1}{3}}) - t^{-1} = -27 \rightarrow t - 3(-3) - t^{-1} = -27$

より, $t - t^{-1} = -36$.

*この間はレベル4に近いレベル3。 $(a \pm b)^2$ と $(a \pm b)^3$ の展開式がわかっているならば簡単。

(2) x, y は正の実数で, 次の不等式を満たす。

$$\begin{cases} \log_3(x\sqrt{y}) \leq 5 & \dots \textcircled{2} \\ \log_{81} \frac{y}{x^3} \leq 1 & \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

$X = \log_3 x, Y = \log_3 y$ とおくと, ②は

$$\log_3 x + \frac{1}{2} \log_3 y \leq 5,$$

$$X + \frac{1}{2}Y \leq 5, \text{ よって}$$

$$2X + Y \leq 10. \dots \textcircled{4}$$

また ③は

$$\log_{81} y - \log_{81} x^3 \leq 1,$$

$$\frac{\log_3 y}{\log_3 81} - \frac{3 \log_3 x}{\log_3 81} \leq 1$$

$$\frac{1}{4}Y - \frac{3}{4}X \leq 1, \text{ よって}$$

$$3X - Y \geq -4. \dots \textcircled{5}$$

X, Y が ④と ⑤を満たす領域は右図のページュ色の部分, 2直線の交点は

$A(\frac{6}{5}, \frac{38}{5})$ だから, Y のとり得る最大の整数は **7** である。

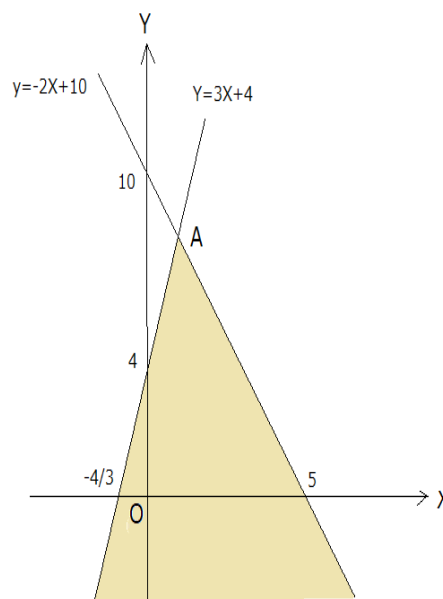


図 1: 第 1 問 [2]-(2), 対数不等式

x, y が ②, ③と $\log_3 y = 7$ を同時に満たすとき,

$$\textcircled{2} \rightarrow \log_3(x \cdot 3^{\frac{7}{2}}) \leq 5 \rightarrow \log_3 x + \frac{7}{2} \leq 5 \rightarrow \log_3 x \leq \frac{3}{2} \therefore x \leq 3^{\frac{3}{2}} = 3\sqrt{3} = 5.19\dots \textcircled{6}$$

$$\textcircled{3} \rightarrow \log_{81} \frac{3^7}{x^3} \leq 1 \rightarrow \frac{3^7}{x^3} \leq 81 \rightarrow x^3 \geq 3^3 \therefore x \geq 3. \dots \textcircled{7}$$

⑥, ⑦より, x のとり得る最大の整数値は **5** である。

*この間はやや難しいレベル3。計算が多いので間違いやすいかなあ, という感じの問題。

第 2 問. 関数 $f(x) = x^2 - (4a - 2)x + 4a^2 + 1$ ($a > 0$) が与えられている。放物線 $C: y = x^2 + 2x + 1$ と放物線 $D: y = f(x)$ の両方に接する直線を l とおく。

(1) l の方程式を求める問題。 C より, $y' = 2x + 2$. l と C が点 $(t, t^2 + 2t + 1)$ において接しているとすると, l の方程式は

$$y = (2t + 2)(x - t) + t^2 + 2t + 1 = (2t + 2)x - 2t^2 - 2t + t^2 + 2t + 1 = (2t + 2)x - t^2 + 1. \dots \textcircled{1}$$

また、 l と D は点 $(s, f(s))$ において接している。 $f'(x) = 2x - (4a - 2)$ より、 l の方程式は
 $y = (2s - 4a + 2)(x - s) + s^2 - (4a - 2)s + 4a^2 + 1 = (2s - 4a + 2)x - 2s^2 + 4as - 2s + s^2 - 4as + 2s + 4a^2 + 1$
 $= (2s - 4a + 2)x - s^2 + 4a^2 + 1. \quad \dots \quad \textcircled{2}$

①と②は同じ直線なので、 $\begin{cases} 2t + 2 = 2s - 4a + 2 & \dots \quad \textcircled{3} \\ -t^2 + 1 = -s^2 + 4a^2 + 1 & \dots \quad \textcircled{4} \end{cases}$ を満たす。

③より、 $t = s - 2a$ 。これを④に代入すると、

$$-(s - 2a)^2 + 1 = -s^2 + 4a^2 + 1 \rightarrow 4as = 8a^2 \quad \therefore s = 2a \rightarrow t = 0.$$

したがって、 l の方程式は $y = 2x + 1$ 。

(2) 二つの放物線 C, D の交点の x 座標は、

$x^2 + 2x + 1 = x^2 - (4a - 2)x + 4a^2 + 1$
より $4ax = 4a^2 \quad \therefore x = a$ 。 C と直線 l 、
および直線 $x = a$ で囲まれた図形の面積
 S は、

$$S = \int_0^a \{x^2 + 2x + 1 - (2x + 1)\} dx$$

$$= \int_0^a x^2 dx = \frac{1}{3} [x^3]_0^a = \frac{1}{3} a^3.$$

さて、放物線 D は、
 $y = \{x - (2a - 1)\}^2 + 4a$ とかける。
右図の⑤は $a > 1$ のときのグラフ、
⑥は $a \leq 1$ のときのグラフである。

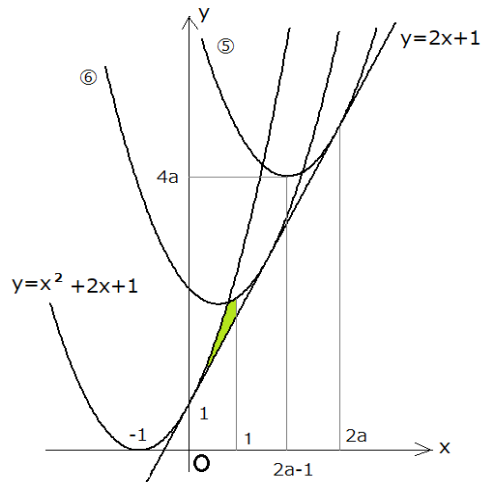


図 2: 第 2 問 (3), 放物線と直線

(3) $a \geq \frac{1}{2}$ のとき、二つの放物線

C, D と直線 l で囲まれた図形を考える。

この図形の $0 \leq x \leq 1$ を満たす部分の面積 T は、

$a > 1$ のとき、放物線 D は⑤の位置にあるので、
面積計算には関与しない。即ち、放物線 C だけで

決まり、 $T = \int_0^1 \{x^2 + 2x + 1 - (2x + 1)\} dx = \frac{1}{3}$ 。 つぎに、 $\frac{1}{2} \leq a \leq 1$ のとき、 T の値は

図 2 の黄緑色の部分の面積なので

$$T = \frac{a^3}{3} + \int_a^1 (x - 2a)^2 dx = \frac{a^3}{3} + \frac{1}{3} [(x - 2a)^3]_a^1 = \dots = -2a^3 + 4a^2 - 2a + \frac{1}{3}.$$

(4) a が $\frac{1}{2} \leq a \leq 1$ の範囲を動くとき、 $U(a) = 2T - 3S$ とおくと、

$$U(a) = -4a^3 + 8a^2 - 4a + \frac{2}{3} - a^3 = -5a^3 + 8a^2 - 4a + \frac{2}{3}.$$

a についてのこの 3 次関数は、

$$U\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{24}, \quad U(1) = -\frac{1}{3}, \quad U'(a) = -(15a^2 - 16a + 4) = -(3a - 2)(5a - 2)$$

なので、 $a = \frac{2}{5}$ で極小値、 $a = \frac{2}{3}$ で最大値 (極大値) $\frac{2}{27}$ をとる。

* (1) はレベル3, (2) はレベル4, (3) は計算がしち面倒くさい, グラフの位置関係を正確に把握できないと手が見つからないでしょう。レベル1に近いレベル2かな。(4) もレベル1に近いレベル2か。増減表をきちんと書かないと間違いやすい。

第3問. 数列 $\{a_n\}$ は, $a_1 = 0$ で次の漸化式を満たす。

$$a_{n+1} = \frac{n+3}{n+1} \{3a_n + 3^{n+1} - (n+1)(n+2)\}, \quad (n = 1, 2, 3, \dots). \quad \dots \textcircled{1}$$

(1) $a_2 = \frac{4}{2}(3 \cdot 0 + 3^2 - 2 \cdot 3) = 2(9 - 6) = 6.$

(2) $b_n = \frac{a_n}{3^n(n+1)(n+2)}$ とおき, 数列 $\{b_n\}$ の一般項を求める。 $\{b_n\}$ の初項は $b_1 = 0$

である。①の両辺を $3^{n+1}(n+2)(n+3)$ で割ると

$$b_{n+1} = \frac{(n+3)}{(n+1)3^{n+1}(n+2)(n+3)} \{3a_n + 3^{n+1} - (n+1)(n+2)\}$$

$$= \frac{a_n}{3^n(n+1)(n+2)} + \frac{1}{(n+1)(n+2)} - \frac{1}{3^{n+1}}$$

よって, $b_{n+1} = b_n + \frac{1}{(n+1)(n+2)} - \left(\frac{1}{3}\right)^{n+1}.$

したがって, $b_{n+1} - b_n = \left(\frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2}\right) - \left(\frac{1}{3}\right)^{n+1}$ である。

n を2以上の自然数とするとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2}\right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{n+1} = \frac{1}{2} \left(\frac{n-1}{n+1}\right),$$

$$\sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{3}\right)^{k+1} = \frac{(1/3)^2(1 - (1/3)^{n-1})}{1 - 1/3} = \frac{1}{6} \left(1 - \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}\right) = \frac{1}{6} - \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^n,$$

となることを利用すると

$$b_n = \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2}\right) - \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{3}\right)^{k+1} = \frac{1}{2} \left(\frac{n-1}{n+1}\right) - \left(\frac{1}{6} - \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^n\right)$$

$$= \frac{n-2}{3(n+1)} + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^n.$$

これは $n = 1$ のときも成り立つ。

(3) 上の結果より, $\{a_n\}$ の一般項は

$$\begin{aligned} a_n &= 3^n(n+1)(n+2)b_n = 3^n(n+1)(n+2) \left\{ \frac{1}{3} \left(\frac{n-2}{n+1}\right) + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^n \right\} \\ &= 3^{n-1}(n^2 - 4) + \frac{(n+1)(n+2)}{2}. \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

上の式から, すべての自然数 n について, a_n は整数であることがわかる。

(4) k を自然数とし, $a_{3k}, a_{3k+1}, a_{3k+2}$ を3で割った余りを考える。 a_n の第1項は, ②より3

の倍数，よって第2項を3で割ったときの余りを調べる。

$$(a_{3k} \text{ の第2項}) = \frac{1}{2}(3k+1)(3k+2) = \frac{9}{2}k(k+1) + 1 \quad \text{だから，3で割った余りは1.}$$

$$(a_{3k+1} \text{ の第2項}) = \frac{1}{2}(3k+2)(3k+3) = \frac{3}{2}(k+1)(3k+2) \quad \text{だから，3で割った余りは0.}$$

$$(a_{3k+2} \text{ の第2項}) = \frac{1}{2}(3k+3)(3k+4) = \frac{3}{2}(k+1)(3k+4) \quad \text{だから，3で割った余りは0.}$$

以上より， a_{3k} ， a_{3k+1} ， a_{3k+2} を3で割った余りはそれぞれ **1, 0, 0** である。

また， $\{a_n\}$ の初項から第2020項までの和を3で割った余りを考えよう。この余りは，各項を3で割った余りの和をさらに3で割った余りと一致する。 $a_{2020} = a_{3 \cdot 673 + 1}$ だから各数の余りの和は673。これを3で割った余りは1。したがって，答えは**1**。

*この問題，(1)はレベル4。(2)は計算が多すぎて間違える確率が高いので，レベル2（レベル1に近い）。(3)，(4)は，まとめてレベル1か。(2)で計算間違いをすると全滅だよ。まああー，埋める穴が多すぎるよ。しかも，①のようなこんな数列，現実世界で出てくるか疑問だね。

第4問. 点Oを原点とする座標空間に2点

$$A(3, 3, -6), \quad B(2+2\sqrt{3}, 2-2\sqrt{3}, -4)$$

をとる。3点O, A, Bの定める平面を α とし， α に含まれる点Cは

$$\vec{OA} \perp \vec{OC}, \quad \vec{OB} \cdot \vec{OC} = 24 \quad \dots \text{①}$$

を満たす。

(1)

$$|\vec{OA}| = \sqrt{9+9+36} = \sqrt{54} = 3\sqrt{6},$$

$$|\vec{OB}| = \sqrt{(2+2\sqrt{3})^2 + (2-2\sqrt{3})^2 + 16} = \sqrt{48} = 4\sqrt{3},$$

$$\text{また，} \quad \vec{OA} \cdot \vec{OB} = 3(2+2\sqrt{3}) + 3(2-2\sqrt{3}) + 24 = 36$$

ここで， \vec{OA} と \vec{OB} のなす角 θ を求めておく。

$$\cos\theta = \frac{36}{3\sqrt{6} \cdot 4\sqrt{3}} = \dots = \frac{\sqrt{2}}{2}, \quad \therefore \theta = 45^\circ.$$

(2) 点Cは平面 α 上にあり，実数 s, t を用いて， $\vec{OC} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$ と表される。Cの座標を (x, y, z) とおくと，①より

$$3x + 3y - 6z = 0 \quad \dots \text{②}, \quad (2+2\sqrt{3})x + (2-2\sqrt{3})y - 4z = 24. \quad \dots \text{③}$$

また， x, y, z を s, t を用いて表すと，

$$x = 3s + (2+2\sqrt{3})t, \quad \dots \text{④} \quad y = 3s + (2-2\sqrt{3})t, \quad \dots \text{⑤} \quad z = -6s - 4t. \quad \dots \text{⑥}$$

これらを②に代入して整理すると， $3s + 2t = 0$ ， \dots ⑦

$$\text{③からは，} \quad 3s + 4t = 2 \quad \dots \text{⑧}$$

を得る。⑦，⑧から， $s = -\frac{2}{3}$ ， $t = 1$ 。Cの座標は $(2\sqrt{3}, -2\sqrt{3}, 0)$ なので

$$|\vec{OC}| = \sqrt{12+12} = 2\sqrt{6}$$

である。

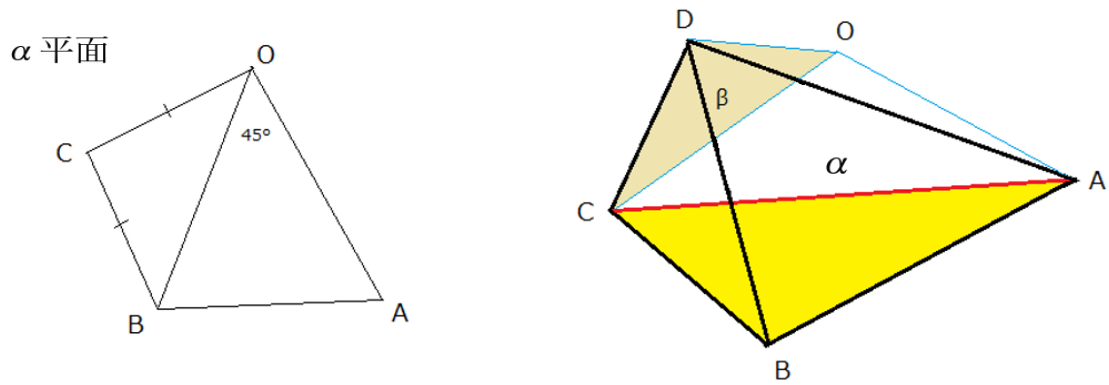


図 3: 第 4 問の図

(3) $|\vec{CB}| = (2, 2, -4)$ である。したがって、平面 α 上の四角形 OABC は平行四辺形ではないが、台形である。ここで、 $|\vec{CB}| = 2\sqrt{6}$ に注意せよ。 $\vec{OA} \perp \vec{OC}$ より、四角形 OABC の面積は $\frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{6} (3\sqrt{6} + 2\sqrt{6}) = 30$ である (図 3, 左のものの参照せよ)。

(4) $\vec{OA} \perp \vec{OD}$, $\vec{OC} \cdot \vec{OD} = 2\sqrt{6}$ かつ z 座標が 1 であるような点 D を求めよう。点 D の座標を $(x, y, 1)$ とおくと、

$$3x + 3y - 6 = 0, \quad \dots \quad \textcircled{1} \qquad 2\sqrt{3}x - 2\sqrt{3}y = 2\sqrt{6}, \quad \dots \quad \textcircled{2}$$

より、 $x = 1 + \frac{\sqrt{2}}{2}$, $y = 1 - \frac{\sqrt{2}}{2}$ を得る。したがって、D の座標は

$$\left(1 + \frac{\sqrt{2}}{2}, 1 - \frac{\sqrt{2}}{2}, 1 \right).$$

また、 $|\vec{OD}| = 2$ だから、 $\angle COD = \theta$ とおくと、 $\cos \theta = \frac{2\sqrt{6}}{2 \cdot 2\sqrt{6}} = \frac{1}{2}$. すなわち $\angle COD = 60^\circ$.

3 点 O, C, D の定める平面を β とする。 α と β は垂直であるので (このヒントはなくてもよいのだが、あれば非常にたすかる。なければ、けっこう難しい), 三角形 ABC を底面とする四面体 DABC の高さは $\sqrt{3}$ である。なぜならば、点 D から線分 OC に下した垂線の足を H とすれば、三角形 ODH は、3 辺の比が $1 : \sqrt{3} : 2$ の直角三角形なので、 $DH = \sqrt{3}$ だからである。三角形 ABC の面積 (図の黄色の部分) は、台形 OABC の面積から三角形 OCA の面積を引けばよいので、 $30 - 18 = 12$.

よって、四面体 DABC の体積は $V = \frac{1}{3} \cdot 12 \cdot \sqrt{3} = 4\sqrt{3}$.

*この問の (1) はレベル 4 (レベル 3 に近い)。線分 OA と OB のなす角を求めておいたほうが良い。(2) はレベル 2 かな (多量の計算をすばやくやる必要がある)。(3) はレベル 2 (レベル 3 に近い)。(4) はレベル 1 でしょう。ここまで到達するのが大変。三角すいの高さでとまどうかな。平面 α の方程式は、 $x + y + z = 0$ なのだが、これに気付くと楽なのだが、無理かな。

第5問. (1) 確率変数 X の確率分布が,

$$P(0) = \frac{612}{720}, \quad P(1) = \frac{54}{720}, \quad P(2) = \frac{36}{720}, \quad P(3) = \frac{18}{720}$$

と考えて解答すればよい。このとき, X と X^2 の期待値はそれぞれ

$$E(X) = \frac{1}{720}(54 + 2 \cdot 36 + 3 \cdot 18) = \frac{180}{720} = \frac{1}{4},$$

$$E(X^2) = \frac{1}{720}(54 + 2^2 \cdot 36 + 3^2 \cdot 18) = \frac{360}{720} = \frac{1}{2}.$$

X の標準偏差は, $V(X) = E(X^2) - E(X)^2 = \frac{1}{2} - \frac{1}{16} = \frac{7}{16}$ だから, $\sigma(X) = \frac{\sqrt{7}}{4}$.

*この問はレベル3 (レベル4に近い)。公式を使うだけの問題 (こういう問題は出さなくてもいいだろ?)。

(2) 確率変数 Y は, 二項分布 $B(600, 0.4)$ に従うので, 平均と標準偏差はそれぞれ

$$E(Y) = 600 \times 0.4 = 240, \quad \sigma(Y) = \sqrt{600 \times 0.4 \times 0.6} = \sqrt{144} = 12.$$

$Z = \frac{Y - 240}{12}$ は近似的に標準正規分布に従うので, Y が 215 以下になる確率は

$$P(Y \leq 215) = P(Z \leq -2.083) = \frac{1}{2} - P(0 \leq Z \leq 2.083) = \frac{1}{2} - 0.4814 = 0.0186 \doteq 0.02.$$

また, $p = 0.2$ のとき, Y の平均は, $600 \times 0.2 = 120$ だから, 上の平均の $\frac{1}{2}$ 倍, 標準偏差は $\sqrt{600 \times 0.2 \times 0.8} = 4\sqrt{6}$ だから, 上の場合の $\frac{4\sqrt{6}}{12} = \frac{\sqrt{6}}{3}$ 倍である。

*この問もレベル3, 公式で計算するだけのつまらない問題。いや, 点数が取れるからいいかな。

(3) 各標本 W_i ($i = 1, 2, \dots, n$) は母集団分布に従う確率変数。各確率変数 $U_i = W_i - 60$ ($i = 1, 2, \dots, n$) の平均と標準偏差はそれぞれ

$$E(U_i) = E(W_i - 60) = E(W_i) - 60 = m - 60, \quad \sigma(U_i) = \sigma(W_i - 60) = \sigma(W_i) = 30.$$

である。

ここで, $t = m - 60$ (各 U_i の平均) として, t に対する 95% 信頼区間を求める。無作為抽出された 100 人の生徒の標本平均が 50 分であったので, 信頼区間は

$$50 - 1.96 \times \frac{30}{\sqrt{100}} \leq t \leq 50 + 1.96 \times \frac{30}{\sqrt{100}} \rightarrow 44.1 \leq t \leq 55.9.$$

*この問もレベル3。最後の問題にレベル3の問を3つものせる必要はさらさらない。まんべんなく問題を出せばいいという考えは止めた方がいいね。